第３回学校運営協議会　議事録

・期日　令和４年２月１５日（火）　午前９時 30 分から午前 11 時 30 分まで
・会場　本校会議室
・参加者　影山冨士彦 氏 （第五地区西連合会　副会長）
三浦靖幸 氏 （東部社会教育振興協議会）
後藤譲治 氏 （特定非営利活動法人ティンクル沼津）
片岡亮太 氏 （和太鼓奏者・社会福祉士・本校卒業生）
Ａ 氏　（本校保護者）
Ｓ 氏　（本校保護者）
Ｋ 氏　（本校保護者）
本校職員　校長　馬場俊一　教頭　谷山和広　事務長　経田美和
養護教諭　蔭山みどり

３　会議の内容
⑴ 校長あいさつ
・昨年度と違い、ほとんどの行事を実施できた。
・高等部の治療室では、地区センターを通じて宣伝してもらい、１１月から１月末まで実施できた。新規の方を含めて多くの方の協力を得られた。

⑵ 令和３年度学校自己評価について報告・説明
学校経営計画の取組目標ア～オについて
ア　授業力の向上と視覚障害教育を中心とした専門性の維持・向上
教頭：全体として高評価となった。職員研修としても、今年度から３観点を意識した授業づくりを目指している。その結果か、保護者アンケートでも、授業に関してよい評価を得られることができた。
校長：２年計画の研修を今年度スタートさせた。来年度、成果としてＡを目指していきたい。

イ　心身の健康の保持・増進とキャリア教育の充実
教頭：卒業後の進路を除き、職員の評価と保護者の評価に大きな乖離は見られなかった。例年課題となる「卒業後の進路」については、今年度、個別面談時に話題にあげ、学校と保護者が一緒に考えていけるよう心掛けた。その成

果か「見通しはまだでも、相談にのってもらえてありがたい」という意見もいただいた。とはいえ、やはり「見通しを持つ」となると、上位学年でないと難しい。そこで、来年度はアンケートの文言を「いくつか見通しが持てた」から「学校と共に考える機会を持てた」などに変更したい。

片岡：進路について、子どもたちの将来像として、一つの見本となる身近な存在が教員である。今、附属視覚に講師としていくことが増え、生徒だけでなく保護者と接することも増えてきた。その中で「片岡さんはこういうときどうするんですか」などと質問されることもある。当事者職員と保護者との関わりはどのようになっているか。

校長：本校にも全盲で１人、弱視で５人ほど当事者職員がいる。昨年度、当事者として静岡視覚のＰＴＡ学習会に招かれ、とても好評を得た。今年度本校でも予定していたが、タイミングが悪く実施できなかった。全盲の職員を始め多くは高等部のため、なかなか中学部以下の保護者と関わることは少ない。何か機会を見付けていきたい。

後藤：本施設には、視覚障害を持った利用者が７人ほどいる。こちらも身近な将来像の一つだと思う。交流として、来校することは可能である。声を掛けて欲しい。

校長：見学等ではいつもお世話になっている。交流も是非検討していきたい。

ウ　地域の特別支援教育のセンター的役割の遂行

教頭：昨年度実施できなかった理解推進活動を、今年度は実施できた。その成果の一つとして福祉教育担当者会に多くの方が参加してくれた。

片岡：ＨＰについて、どのような人が見ているか、解析はしているのか。

校長：ＨＰについては解析していない。Facebook については、レスポンスがあり、やはりやりがいを感じる。しかし解析まではしていない。

片岡：ＨＰを見た反響というのは何かあるか。

校長：教育相談を希望する人の中には、ＨＰを見たという人もいる。

片岡：それはよかった。ぜひ継続して欲しい。

エ　防災・防犯教育の重視と安全で魅力的な環境づくり

影山：マンホールトイレ設置訓練には以前参加させてもらっていたが、ここ２年できていない。また声を掛けて欲しい。

教頭：昨年度は職員のみ、今年度は人数を絞って声を掛けたが、タイミングが

合わなかった。今後もぜひ声を掛けさせてもらいたい。
校長：防災はどこまでやってもＡということはない。今後も努力していきたい。

オ　業務への手ごたえとワークライフバランスの維持
校長：業務への手ごたえとして、「幼児児童生徒の成長の様子を具体的に説明できる職員」という項目を追加した。今年度は幼児児童生徒の成長をとても感じられたので、どの職員も具体的に説明できると思う。

来年度に向けて
校長：アでは３観点に焦点を当てている。３観点を意識して授業をすることで、授業の目的がはっきりしてくる。その３観点も、「よくばらない」ことを重視している。一つの授業で全ては無理であり、どこか一つに焦点を当てる。何週間かのスパンで３観点全てを実施できるようにすることが重要。今後も注意して授業づくりをすすめていきたい。
　イでは進路について、先ほど説明があったように「学校と共に考える機会を持てた」としていきたい。今年度保護者から他校への見学希望が増えた。学校と一緒に考えていく体制を継続し、進めていきたい。
　ウでは、第１回の時に片岡さんから、以前花壇やプランターで地域とつながりを持っていたと話しを聞いた。できれば来年度、玄関前の花壇を地域の方と整備できたらと考えている。学部ごとのイベントではなく、学校として進めていきたい。また、地区センターに相談させてもらいたい。
　このコロナ禍の中で、よかったこととしてオンライン授業の進歩がある。小１の教科学習、本校では１人だが、静岡視覚３人、石川盲１人とオンラインで国語の授業を実施した。お互いが名前を覚え、最後にはオンラインで劇発表するまでになった。実は、今朝もまたオンラインでつながり、クイズを出し合っていた。とてもすごいと思う。
　また、国はＧＩＧＡスクール構想で一人１台タブレットＰＣを進めている。本校でも規定を作り、先月末から貸出を始めた。中学部からは早速希望が出て貸し出している。本校は今後も進めていきたい。
三浦：校長先生の３観点の話に同感である。学びにむかう力はとても大切である。花壇やプランターで、地域の方に来てもらうのはとても良い。触れあう機会を設定して欲しい。
影山：第五地区では、今年度開北小・五小・五中のコミュニティスクールで指

定を受け実践している。本校が以前から実施しているため参考とさせてもらっている。花の話を６月に聞いていたため、五小では花の輪広場を地域住民とともに整備した。中央にスイセンがあり、きれいにできている。地域からは２０人ぐらい参加した。キャリア教育としても、身近な方を講師として色々授業を行なった。協力できることがあればしていきたい。

　また、ウのマッサージについて、治療室だけでなく、以前は近隣の老人会に声を掛け、公民館に出向いていたこともあると思う。質問されることもあるので、できる環境になったら是非声を掛けて欲しい。

教頭：できる環境になったら是非お願いしたい。

片岡：オンラインの話が出ていたと思う。自分が在学時、ほぼ全てマンツーマンであった。おかげで学力は伸びたと思うが、息つく暇がなかった。読むのも自分、答えるのも自分、何をやるのも自分しかいなかった。マンツーマンのデメリットだと思う。高等部に行き、他の生徒が答えている「間」ができてとても落ち着いた。別のことをしていて怒られたこともあった。しかし、そのような体験も必要だと思う。オンラインでも、他の子が対応している「間」ができる。とても良いことだと思う。是非、全国的に進めて欲しい。

校長：教員も同様である。マンツーマンだとデメリットも出てくる。解消できる環境が作れれば解消していきたい。

⑶　委員からの御感想、御意見、御提言等

Ａ：浜松視覚になれば、子どもを一人で送り出さなければならなくなり、不安である。しかし、見学では先輩の話しも聞くことができた。子ども自身も、何ができるようにならないといけないのか、とてもリアルに感じることができた。見学できてとても良かった。正直、進路について小３で転校してきてから、あまりイメージできていなかった。何を質問してよいかも分からなかった。しかし、先生から話を振ってもらったことで、見てみたいと思い、見学につながった。先生から話を振ってもらったことはとてもありがたかった。

Ｓ：入学してから現在まで学校で本当に色々な経験をさせてもらった。それが身に付き、成長していることをとても感じられた。見え方についても、先生方が練習させてくれたおかげで、はっきりと結果を得られることができた。正直、もっと見えていると思っていたが、全然見えていないことが分かった。

改めて、実態を知ることができた。また、進学先の一つとして他校を見学させてもらった。見たことで悩みは増えたが、先生から言われて助かった。

Ｋ：今月の授業参観で、かけ算の導入を見せてもらった。学校と家庭で同じ指導方法をしたいと思い、興味深く見せてもらった。３人のクラスで、先生が理解度に合わせて変えていく言葉掛けがとても良かった。家でも使いたい言葉掛けがあった。支援の中で、触ることの大切さや、少人数の良さを感じることができた

片岡：自分は高等部に行ってから寮に入った。現在本校には寄宿舎がないと思う。掃除や洗濯など練習はどうしているのか。今になり、掃除をしても妻に「全然きれいになってない」といわれ、今まで習ってきたことはなんなんだ、と思うこともある。汚れる場所、例えば便座の裏など、想像したこともなかった。自分が高校生の時は、素直に聞き入れる耳を持っていなかった。心が純粋で、吸収できる幼いころから、ちゃんと教えてあげた方がよい。

三浦：少人数の良さを生かして欲しい。第三者が関わることで解消されるデメリットもあると思う。是非取り入れていって欲しい。

後藤：オンラインでも、多くの人と関われることは、自分たち施設にとってもありがたいことだと思う。怒られる経験はしておいた方がよい。現在、利用者３０人ぐらいの内７人が視覚障害を持っている。正直、常識的なことが通じない場合がある。例を挙げれば、席に着いている時、間に人がいるのに、その人を挟んで大きな声で会話をし続けることがある。なかなか指摘しにくい。できるだけ早くから多くの人と関わる機会を持ち、経験していって欲しい。

影山：地区としても、どのように学校を支援できるか模索している。現在、放課後を使い、希望者の学習支援をしている。何かあれば言って欲しい。

(4) 不祥事根絶に向けた取組の報告・説明

教頭：平成 27 年度以来「教職員心得（沼視版）」の内容検討をしていないので、職員自身が意識できるよう来年度は内容の見直しも検討していきたい。